



千葉県立八千代高等学校 同窓会会報

令和5年3月号

令和5年3月8日発行
発行：八千代高校同窓会
総会員数：20,456名



同窓会HP QR



角田夏実選手、柔道世界選手権2年連続優勝！

2022年10月、柔道世界選手権タシケント大会で女子48kg級の角田夏実選手（了徳寺大学職員：本校体育科第38期生）が決勝でカタリナ・メンツ選手（独）を破り、昨年に引き続き、2年連続優勝を果たしました。切れ味鋭い巴投げ・磨き上げられた腕ひしぎ十字固めを武器に全て一本勝ち、文句なしの優勝でした。

2022年は世界選手権のほか、2月はパリ、6月はウランバートルで開催されたグランドスラム大会でも優勝。悲願のパリ五輪を目指して、頑張れ角田選手！

※写真提供：了徳寺大学



同窓会からのお知らせ

◆クラス会に補助金

- ・補助金額 1万円（1開催）
 - ・補助金交付期限 卒業後5年まで（但し、1年1回）
 - ・申請方法：申請書類をHPからダウンロードし、記入の上提出願います。
- 詳細は八千代高校同窓会担当職員までお問い合わせください。

◆令和5年度総会開催

同窓会総会を下記のとおり開催いたしますので、皆様のご出席をお待ちしています。

- ・期日 令和5年4月15日（土）
- ・時間 午後1時から
- ・場所 八千代高校八千代寮

※新型コロナウィルス対策で中止や変更となる場合があります。
出席の際にはHPで確認をお願いします。

◆役員紹介

会長	後藤 真	(S54年卒)
副会長	金子 保敏	(S55年卒)
"	水島 真一郎	(S61年卒)
"	都丸 輝信	(校長)
書記	嶋崎 雄斗	(H14年卒)
"	三浦 祐輝	(H20年卒)
会計	月村 路子	(H14年卒)
"	安部 文	(事務長)
監査	稲垣 雄一	(S48年卒)
"	丹治 行雄	(S48年卒)
顧問	桑原 妙子	(S43年卒)
"	立石 梅夫	(S48年卒)

HP <https://www.yachiko-dousoukai.com>

活躍する同窓生

同窓生には、スポーツ界、芸能界、実業界などで活躍している人がたくさんいます。今回は法曹界で活躍する同窓生を紹介します。

「弁護士について」

あずさ総合法律事務所 弁護士 新名 修三（平成2年普通科卒）

弁護士には、専門分野に特化したタイプと、様々な分野全般を広く浅くこなすタイプがいます。例えば、大学病院の専門医と町医者みたいなもので、私はどちらかと言うと後者の町医者タイプです。土地や建物（不動産）に関する相談が多いので（特殊な借地・借家や倉庫業、都心のビルの売買契約の補助など）、不動産が専門と言えば専門ですが、それ以外にも交通事故や著作権侵害（民事事件）、離婚や相続を巡る問題（家事事件）、被疑者・被告人の国選弁護（刑事事件）など様々な分野を取り扱っています。町医者タイプは『広く浅く』ですから当然私の手に負えない案件がありますが、専門医タイプの弁護士を紹介して橋渡しをしています。

どの事件も巻き込まれた方々は切羽詰まった状況に置かれているため、表面を取り繕う余裕がありません。本音を私にぶつけてくるため、他の仕事と違って深いレベルで人と接します。現八千高生も目にする記事なのでソフトな事例に止めますが、離婚事件の相手方から『あんた私の人生に責任持てるの！？』と詰め寄られたこともありましたが、外では肩で風を切って歩くヤクザと警察署で面会した際に『留置所に入ってから眠れないので、睡眠薬が欲しい』と弱音を吐かれたこともあります。人と深く接してほんのちょっとだけ人生を回復する助力をする仕事がしたい。それが私が司法試験を受けた理由、専門医タイプではなく町医者タイプの弁護士を選んだ理由です。

八千高在籍時は卓球部に所属していました。他の部みたいな華々しい戦績はないけれど、トレーニング場でTシャツを絞ると汗が滴るくらいに皆一所懸命に練習しました。ただ、一方では部室で麻雀をやったりして適度に遊んでもいました。ちなみに、麻雀をしているところを当時柔道部の顧問だった越川均先生（その後、校長として八千高に再赴任された先生）に見つかってしまいました。そのときは見逃してくださったのですが、三度目か四度目に見つかったときは、さすがの先生も堪忍袋の緒が切れてしまい、麻雀牌を取り上げられた上、こってり絞られました。皆で反省（？）して、以後は先生に見つからないように音が出ない紙でできた麻雀牌を使うようになったのは、今となっては楽しい思い出です。

1年生か2年生になってからかは忘れましたが、色々な職業を紹介した本を読んだところ、弁護士も記載されていて興味を持つようになりました。2年生になってから大学受験に向けて進路を考え始めたこともあって、『興味』はやがて人と深く接したいという思いと合間って『具体的な夢』に変わって行きました。調べて行くと、弁護士になるためには『現代の科举』と言われた司法試験に合格しなければならないこと、そのためにはまず司法試験の合格実績がある大学に行く必要があること、合格実績がある大学はいずれも難関であること、などがわかりました。まずは大学入試を突破する必要があったので、勉強時間を増やすために2年生の2学期に卓球部を辞めました。『文武両道』は完遂できませんでしたが、やるときはやる、遊ぶときは遊ぶ、そんな高校生活だったと思います。

生徒を信頼して自由にやらせてくれる先生方と、その信頼に応える能力がある生徒（私は越川先生の信頼を裏切ってしまいました）。八千高の良さは、そんな双方向の力と先生たちの努力に基づく自由な校風にあると思います。私は、八千高の自由な校風の下で諸先生方から将来を考える力と時間を与えてもらい、実行し、今に至ります。また、実行段階では、八千高で培った『（八千高生活の半分で終わりましたが）武』による体力と気力が支えになりました。八千高を『利用』する方法は私一人の経験で軽々に語れるものではありませんが、生徒の能力を信頼して自主・自由を尊重してくれる高校はそうそうないと思います。

八千高は元々家政科が出発点で、そこから発展して普通科と体育科が加わったそうです。各科によって目指す方向は違えど、自主・自由を尊重してくれる校風は、私が卒業して30年以上経った今も変わらないと確信しています。現八千高生の皆さんには、恵まれた今の環境を最大限に『利用』して、かつ、楽しんで過ごして頂ければ幸いです。

略 歴

新名様のご依頼にて顔写真の掲載は控えさせていただきます。

- 1990年3月 八千代高校卒業
- 1990年4月 明治大学法学部入学
- 1994年3月 同大学卒
- 2005年 旧司法試験合格
- 2007年10月 東京弁護士会弁護士登録 あずさ総合法律事務所入所
- ◆著書（共著）
- 2009年 ケース別 不動産を巡る金銭請求の実務一手法と文例（新日本法規出版）
- 2022年 近隣トラブル 解決のポイントと和解条項（新日本法規出版）



正義の女神テミス



事を論じるときは情を尽くし、
事を行うときは責任をもって
行う。

「千葉の街弁」

澤田綜合法律事務所 弁護士 澤田 仁史（平成2年普通科卒）



千葉市の弁護士事務所付近



オフィス相談スペース

現在、私は千葉市内において弁護士1人（私）、事務職員1人の小さな法律事務所を経営しております。弁護士登録をした当初は、弁護士が複数（私を含めて7人）いる事務所に就職して給料を貰っていたのですが（いわゆる「イソ弁」※居候弁護士の略）、約8年間勤務して独立し、現在に至っております。

弁護士業務としては、債務整理、離婚、相続、交通事故、刑事事件、少年事件など様々な分野を取り扱っております（いわゆる「町弁・街弁」※町の弁護士という意味）。専門と言うほどではありませんが、興味を持って取り組んでいる分野は消費者問題、社会福祉に関する問題です。これらの分野については、弁護士会の「委員会活動」や他の事務所の弁護士と一緒に「弁護団」を組むなどして活動しております。あまり収入にはつながらない分野ばかりですが、弁護士1人の事務所ということもあり、比較的自由にやっております。

自由がある反面、自営業者でもあるので、月ごとに売上げは上下します。年間を通せば毎年同じくらいの売上げにはなっていますが、新しい仕事が多くなかなか入らなくて「大丈夫かな。」と不安な気持ちになることもしばしばあります。売上げについては厳しいことを述べてしまいましたが、一生懸命仕事をしていればそれなりの収入を得ることはできます。そして、ある程度の収入が確保できれば、自分の興味のある分野に積極的に取り組むことができるのが、この仕事（特に小規模な町弁）の大きな魅力です。やる気のある若い人には積極的に目指して欲しいと思います。

弁護士の所には、様々な悩みを抱えた人が相談に来ます。困っている人の悩みを解決するという点ではやり甲斐のある仕事ですが、他方で、人のトラブルの中に飛び込んでいく仕事ですから、ストレスの溜まりやすい仕事でもあります。悩み過ぎて心を病んでしまう弁護士もいます。弁護士になるには、ただ法律の知識があれば良いというものではありません。精神的な「図太さ」に加え、困った時には相談できる「仲間（人とのつながり）」を持っていることが必要だと思います。

私もこれまで多くの人に助けられてきました。法律問題といっても様々な問題が複雑に絡み合っていて、弁護士1人の力では解決できないことが多くあります。特に貧困の問題や高齢者・障がい者が関わる問題については、福祉関係者と連携して取り組むことが多くあります。弁護士業務に限ったことではありませんが、特に弁護士の仕事においては人とのつながりは非常に重要な「財産」となります。

将来、弁護士を目指している学生さんがいましたら、「勉強はもちろん大事ですが、それだけでは足りません。多くの人と知り合い、話をして、つながってください。」と伝えたいです。また、「大変だけど、やり甲斐のある仕事ですよ。」とも伝えたいです。なお、公開されている裁判は誰でも傍聴することができます。興味がありましたら、夏休み冬休みなどを利用して傍聴してみてください（土日祝日は休み）。弁護士業務のほんの一部に過ぎませんが、少しはイメージしやすくなるかもしれません。

略 歴

- 1990年 八千代高校卒業
- 1995年 早稲田大学法学部卒業
- 1999年 司法試験合格
- 2000年 司法研修所入所（司法修習）
- 2001年 司法修習修了・弁護士登録（千葉県弁護士会）千葉綜合法律事務所入所
- 2009年 上記事務所から独立し、澤田綜合法律事務所開設、現在に至る。

◆弁護士会における主な所属委員会

日本弁護士連合会 消費者問題対策委員会、貧困問題対策本部

千葉県弁護士会 消費者問題委員会、社会福祉委員会、精神保健福祉委員会





栄光の記録

2022年度に大会に出場した部活動などを紹介します。

女子ハンドボール部

第68回関東大会11年連続出場ベスト8！

5月に神奈川県で開催された令和4年度第68回関東高等学校総合体育大会ハンドボール競技会に11年連続で出場し、ベスト8という成績を収めることができました。

大会初戦では、群馬県1位の富岡高校と対戦しました。昨年の同大会で負けた相手ということもあり、リベンジに燃える一戦となりました。試合の前半は、緊張からか動きがたたく、我慢する時間帯が多くありました。ハーフタイムで選手たちは奮起し、後半は堅守から、スピードあるコンビネーションプレーによる強攻で得点を重ねていき25対16で勝利することができました。同日に行われた2回戦では、神奈川県の横浜平沼高校と対戦しました。前半立ち上がりに退場者を出すなど非常に劣勢な状況となりましたが、GKの好セーブから勢いをつけて連続得点に繋げ、なんとかリードしてハーフタイムを迎えることができました。後半では、互いに譲らず一進一退の攻防となりましたが、選手は高い集中力と粘り強

顧問 玉屋 裕基
いプレーで何とか前半のリードを保ち17対11で勝利を掴みとることができました。翌日の準々決勝では、過去に多くの全国優勝経験のある強豪校の佼成学園高等学校でしたが、選手たちは臆することなく、粘り強くプレーし善戦することができました。

同日2連戦という体力的に非常に厳しい中でも互いに声を掛け合い粘り強くプレーできた経験は、選手たちに大きな自信を与えてくれました。



陸上競技部

関東大会で2種目入賞・2年連続インターハイ出場！

令和4年3月、栃木県総合運動公園カンセキスタジアムとちぎにて開催された関東高等学校陸上競技大会にて2種目の入賞を果たし、男子4×400mRで全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の出場が決定しました。陸上競技部のインターハイ出場は昨年に続き2年連続、男子4×400mRは昭和63年以来34年ぶりの出場になりました。八千代高校男子4×400mRは陸上競技部の中では一番多くインターハイに出場している種目で、古豪復活といえる活躍に多くのOBOGの方から激励をいただきました。

インターハイの会場は鳴門大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム（徳島）でした。大会4日目の予選1組目、組を1位、全体では15位で準決勝に進出することができました。予選通過は15位でしたが8位とは0.13秒の差で、決勝進出も狙うことのできる順位につけていましたが、順位を争う

顧問 尾崎 康太、岡崎 友太郎
接戦の最中にバトンを落としてしまい準決勝敗退となってしまいました。僅差で戦う世界の厳しさを痛感しました。

インターハイという大きな舞台で走るという経験だけではなく、バトンを落とすという陸上競技の中でも一番悔しい経験は、選手たちだけではなく多くのチームメイトを奮い立たせることになりました。今後もインターハイに出場できるように顧問、部員一丸となって努力していきます。



女子柔道部

関東大会準優勝（団体）・金鷲旗高校柔道大会ベスト16（団体）

顧問 熊野 耕二、川元 一洋、石渡 聖子

【4月】1年生4名が入部、部員16名で新年度スタート。
【5月】関東大会県予選（団体戦）優勝。昨年に続き、連覇。
【6月】地元千葉開催の関東大会（団体戦）準優勝。決勝は大将戦までもつれる大接戦。（葛西桃花、八馬ひより、横山美月、稲村若那、森山美優）

【7月】20歳以下で争われる関東ジュニア大会において、3年生の八馬ひよりが3位入賞を果たし、全日本出場権獲得。大学生を相手に一本勝ちを連発する力強い勝ち上がり、同じく3年生の葛西桃花、昨年に続く全日本出場は逃すも4位に入賞し地力の高さを証明しました。

高校柔道三大会の一つである金鷲旗柔道大会（福岡県）が2年ぶりに復活。厳しい組み合わせの中、抜群のチームワークで4連勝の快進撃。あと一回勝てば5位入賞でしたが最後は力及ばず。全体を通して八千代らしい粘り強い好試合でした。

【8月】愛媛インターハイに横山美月、森山美優が出場。横山は初の高校全国大会で3勝し5位入賞。森山は初戦で敗れはしたものの千葉県代表として堂々と畳の上で勝負しました。

【9月】全日本ジュニア大会に八馬ひよりが出場し、春の全国大会に続くベスト16。

【10月】栃木国体に葛西桃花、横山美月が出場。

【11月】新チームで臨んだ県新人大会。個人戦において優勝者4名、準優勝者2名、3位2名の活躍がみられました。優勝した4名は3月に日本武道館で行われる全国大会に出場します。（佐藤心南、横山美月、稲村若那、森山美優）

毎年メンバーが入れ替わる高校部活動ですが、部員たちの柔道に懸ける熱い思いは毎年変わらず、伝統は脈々と受け継がれています。今後も日々の積み重ねを大切にしながら全国の頂点を目指し精進していきます。





吹奏楽部

3つの県で響かせ・沸かせたYWO

顧問 富田 瑠美、黒澤 由佳、関 直一

昨年も各コンクールに出場をし、各地でYWOのサウンドが響きわたりました。吹奏楽の甲子園とも言われておりますコンクールでは、予選、本選と進むことができ、『第28回吹奏楽コンクール（B部門）』では、千葉県代表として東関東大会まで進み、茨城県のザ・ヒロサワ・シティ会館にて銀賞をいただくことができました。10月は『第28回日本管楽合奏コンテスト』の全国大会へ参加をし、千葉県の森のホール21にて優秀賞、12月は『第7回全国ポピュラーステージ吹奏楽コンクール』の全国大会に挑み、神奈川県横須賀芸術劇場にて優秀賞を受賞いたしました。

どのコンクールも東関東・全国大会へ進出ができましたことは、日頃支えて、応援をしてくださいます先生方・家族・友人、そして仲間がいるからこそだと考えます。

「The Pride of YACHIYO」をモットーに、これからも挑戦し進化をし続けます。令和5年5月7日（日）に『第36回定期演奏会』を予定しております。八千代市市民文化会館にて部員一同、感謝を込めて、お待ちしております！



鼓 組

「とうきょう総文2022」出場！

顧問 野中 伸康、丸田 陽子、平野 孝明

8月に、八千代高校和太鼓芸能集団鼓組は、東京都で開催された第46回全国高等学校総合文化祭東京大会に、参加してまいりました。昨年は、和歌山県での開催でしたので、移動の時間や労力に大変神経を使いましたが、今年は東京都練馬区での開催でしたので、普段とあまり変わらないコンディションで、本番を迎えることができました。

当日は、それまでの練習の成果を十分に発揮した素晴らしい演奏を、観客の皆様にお聞かせすることができました。また、普段聞くことのできない上位入賞校の演奏を聞くことができたのは今後に向けて貴重な経験になりました。昨年は日程の関係で参加できなかった生徒交流会にも参加し、他校の部員さんたちと明るい雰囲気の中、交流を深めることができたことは、今までに得られなかった成果となりました。

今年度は、イベントの開催がコロナ禍前に近い状況に戻ってきて、初めて経験するイベントもありました。準備に不慣れで戸惑うこともあり、不安を感じることもありましたが、それでもお客様から演奏後に頂く激励と期待の言葉に支えられ、部員一同更なる技術の向上を目指して今日も練習に励んでいます。



男子水泳部

男子水球16年振りに関東大会出場！

顧問 田沼 高実、金澤 陽介、小林 英樹

令和4年6月の県総体で3位に入り、7月に千葉県国際総合水泳場で開催された関東高等学校水泳競技大会水球競技に16年振りに出場することができました。今年のチームは3年生が3人ながら、キャプテンで昨年度県選抜選手に選ばれたエースの加村、チーム一の泳力を生かして守備から攻撃まで献身的に動き回る浅田、チームの精神的支柱で守備の要GK風端の3年生がチームを引っ張り、急速にチーム力が向上してきました。

1回戦の相手は神奈川の慶應義塾高校で、劣勢が予想されていましたが、試合開始からの2点先取でペースを掴み、第1ピリオドは5対3でリード、前半を8対8の同点で折り返しましたが、第3ピリオドで1点のリードを許し、最後は9対13で敗退となりました。

力では圧倒的に劣るなか、最後まで諦めずに全力を出し切った選手達に敬意を表したいと思います。また、応援に駆けつけて頂いた校長先生からも「十分に八千代高校の存在感を示して

くれた」との労いのお言葉をいただきました。

やはり関東大会に出場して、他県の強豪校のプレーや行動を肌で感じることはチームにとって大きな財産となりました。今後も出場できるように顧問、部員一丸となって努力していききたいと思います。

関東高等学校水泳競技大会 関東高等学校選手権水泳競技大会



青春群像

現在、八千代高校では、運動系16部、文系12部、理系3部が活動を行っています。今回は4つの部活動を紹介します。

山岳部

顧問 岡田 佳也、堀江 広之



上高地河童橋にて穂高連峰を望む

バスケットボール部女子は、3年生8名、2年生6名、1年生8名で活動しています。「県大会ベスト4」「関東大会出場」を目標に、全員で一生懸命練習しています。今年度出場した関東県予選では、関東大会をかけた試合に1点差で敗れ、出場を逃してしまいました。全員が悔しい思いをし、上位で勝つことの難しさを痛感した大会でした。しかし、関東大会をかけた試合を戦えた経験は必ず今後につながると思っています。

バスケットボールは日頃の習慣が大きく関わるスポーツだと感じています。技術を磨くことも体を鍛えることも大事ですが、同時に思考力や判断力が、攻守の切り替わる様々な場面で必要となります。練習を通して心技体、そして思考力や判断力をバランス良く成長させることを日常からこだわりたいと思います。また、チーム力が高まるようにコミュニケーションを大切にしたり、勉強と部活動をきちんと両立させたりして、人間性の成長も求めながら、目標に向かって全員でチャレンジしていきます。

八千代高校は最高の環境です。バスケットボールを通して、日々の努力と感謝の気持ちを忘れずに、最高のチームになれるよう精進していきます。応援よろしくお願いします。

2年生4名・1年生6名の部員で臨んだ夏合宿2日目、北アルプス槍ヶ岳(3,180m)登頂を目指し、頂上直下で幕営した夜半の天候は大荒れでした。瞬間最大風速は20mを超え、テント上に張った防水フライシートは飛ばされ、大人の力でも決して曲がらない直径10mmのアルミ合金テントポールも「くの字」に曲がりました。シュラフ(寝袋)で横になることも叶わず、浸水したテントの中で部員は体育座りで眠れないまま夜明けを迎えることになりました。しかし、普段から長距離走と15kgのザックを背負ってひたすら校舎の外階段を上り下りする歩荷トレーニングで培った屈強な体力のお陰で、天候の回復を待って予定より3時間遅れで全員が無事頂上に立つことができました。

登山で天気が悪いと、良いことがひとつだけあります。それは他の登山客が少ないことです。北アルプスのハイシーズンは場所によって渋滞が起きることもありますが、今回槍ヶ岳の頂上に向かう一方通行の長い鉄ハシゴも一人ずつ慎重に登ることができました。ところが今度は順調に上高地への下山中には、突然登山道が通行止めになりました。やがて長野県警山岳救助隊の赤いヘリが姿を現し、100mほど前方の登山道で遭難した女性が吊り上げられるのを生で目撃することになりました。こうして昨年の夏も八千代高校山岳部員は、日常にはない貴重な体験を積むことができました。

バスケットボール部女子

顧問 紙谷 建吾、藤橋 洋輔、藤代 浩司



写真部は3年生が引退し、現在2年生9名、1年生3名の計12名で活動しています。日頃の活動内容は撮影会や体育祭や文化祭といったイベントで撮った写真、個人で撮ってきた写真を貼ったポスターを作成し校内に飾ったり、時には屋上に行って撮影をしたりしています。また春、夏、冬といった長期の休みには部員達が撮影場所として行きたい場所を話し合って撮影会に行っています。今年度の春休みには佐原に、夏休みには葛西臨海公園や成田山新勝寺に行き、歴史的な風景や美しい自然、海の生き物などたくさんの写真を撮影してきました。

そして、写真コンクールにも積極的に参加し入賞を目指しています。特に毎年5月頃に開催される写真甲子園は団体戦であるため、部員全員でテーマを決めてそれに沿った写真を厳選して大会に挑みます。残念ながら今年度は二回戦敗退となってしまいましたが、来年度は全国出場できるように日々たくさんの被写体を眺め、研究を重ねていきます。また、放課後の活動以外にも学校行事の中で撮影・配信のお手伝いをさせてもらい、学校行事が円滑に進行するよう写真部員たちが活躍しています。これからも写真部として様々な場所でたくさんのものを撮影して新しい発見が生み出されるよう精進していきたいと思っています。

写真部

顧問 鈴木 菜



華道部

顧問 姫野 知子、神房 嘉子、石井 理恵子



華道部は、3年生4名、2年生3名、計7名で活動しています。月に2回金曜日、作法室にて池坊講師の先生にご指導いただき楽しくお花を生けています。

いけばなには立花、生花、自由花の3種類の形式があります。部活動では主に自由な発想によって作られる創作的で個性的な自由花と「真」「副」「体」で構成する生花を学んでいます。季節の花と向き合い、花材を見る目を日々養っています。花の持つ特徴をいかすには、正面だけでなく後ろ姿にも魅力が隠されていることや線と空間を上手に表現する方法などお稽古の中で様々なことを教えていただいています。3年間活動することで、素敵に生けることができるようになり、免許状を取得することもできます。

文化祭では部員は少ないですが、個人作品・先生の作品を展示しています。日本の伝統文化「いけばな」の魅力を多くの方に知っていただけたらと思います。日々の生活にゆとりと彩りを与えられるように今後も活動を盛り上げていきたいと思っています。

光よ若き花に降れ

新しく八千代高校に赴任した先生や八千代高校OBOGなどを紹介します。

「八千代高校に赴任して」



第21代校長
都丸 輝信

令和4年4月に八千代高校に二度目の赴任となりました。一度目は、平成10年4月から平成19年3月まで9年間保健体育の教諭として勤めました。八千代高校での教員生活は、同僚の高木宏己先生の「八千代の第2期黄金期を創ろう」を合言葉に、地元開催の2005千葉きらめき総体に向けて、二度目の青春時代のように情熱を傾けた期間でした。9年の間には、サッカー部のインターハイ優勝、全国選手権3位、男子バスケットボール部や女子柔道部の活躍などに触れ、自分事のように喜ぶと同時に少しの悔しさも感じながら過ごしていたことを懐かしく思い出します。

戻ってきた学校には、教諭時代の卒業生が数名同僚として勤務しており、時の流れを感じずにはいられません。しかし、生徒の気質や学校の雰囲気は当時のままであり、良き伝統として継承されていることを嬉しく思っています。そして、グラウンドには卒業生や関係者の寄付により設置された人工芝が敷かれ、生徒たちは汚れを気にすることなく伸び伸び運動しています。

以前に、私同様に本校教諭でもあった越川校長が「八千代高校のグラウンドを見ると、走れと言われているような気がする。」と仰り、実際に走っておられたことを思い出し、私も自分の足に聞いてみたのですが「はい」とは言ってくれず、いまだに見ているだけです。残り任期は2年となりますが、今度は体育・スポーツだけでなく、八千代高校全体のために努力してまいりますので、同窓生の皆様の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

「八千代高校と私」



教諭 鈴木 菜

私が中学生の頃に八千代高校を進学先を選んだ理由は、料理をつくることや食べることが好きなので家政科のある高校で専門的な技術や知識を身につけたいと思ったからでした。今思うと、志望動機は小さいものだったと感じます。しかし、この気持ちが高校入学後も常に脳裏にあったからこそ「家政科の課題」や「家政科生徒としての進路実現」にも日頃から積極的に頑張ることができていました。

部活動は3年間書道部に所属し、現在も顧問をされている鹿野先生の元で活動していました。私の中で「書道部」は自分の心地よい居場所でした。同級生の普通科の友達とたくさん笑って、優しい先輩、かわいい後輩、頼もしい顧問の先生に囲まれて活動できてとても楽しかった思い出です。

今年度、母校に教員という形で戻ってきて、校舎や生徒の雰囲気から最初はただ「懐かしい母校」と感じていました。しかし同じ八千代高校という場所でも、数年前は“生徒”で今は“教員”と立場が変わって八千代高校の見え方も変わり、「自分の職場」と思うようになりました。一方で、放課後や休み時間などの部活動の活発さは伝統として引き継がれているのだと思いました。鼓組や吹奏楽部の練習する演奏曲や運動部の活動場所などは、私が八千代高校の生徒だったときに聞いていた音や見ていた光景と変わらないことも多く、とても感動しました。

現在は新型コロナウイルスの感染拡大により、当時と比較すると制限されていることも多いですが、そんな中でも八千代高校の卒業生として良い伝統を引き継いでいけるよう、今後は教員という立場でサポートしていきます。

(平成28年3月家政科卒)

八千高ニュース

昨年、八千代高校の出来事や話題になったことなどをお届けします。

ボランティアアワード2022 図書委員会 鎌田実賞受賞

ボランティア・アワードは学校や活動分野の垣根を越え、お互いの活動理解を深める高校生対象のボランティア活動の交流会です。今回紙を媒体とした活動団体を探していた大会事務局から連絡を受け、急遽参加を決めました。受付締切り直前の申し込みながら地区大会の予選を通過して、8月に新宿で開催された全国大会への出場が決まりました。

この大会参加は、生徒の学びと成長のきっかけとなりました。それは「様々な視点で物事を考えることができるようになった」「新しい刺激を得ることができた」「様々な活動や経験を積極的にやりたい」という生徒の感想やその後の取り組みからも感じています。

この大会で本校の読書活動、地域や他校との協働の取り組みは絶大な評価を得ました。その結果「鎌田実賞」が授与され、副賞としていただいた活動支援金5万円で棚を購入しました。この経験を活動に生かすことができるように、更なる取り組みに挑戦していきます。(文：図書委員会顧問 齋藤 洋子)



会議室にプロジェクター& スクリーン新設

令和4年11月29日、会議室の天井にプロジェクター、前黒板の上部に収納式スクリーンが設置されました。以前から、人が集まる空間に備え付けのICT環境を整備することが、教育活動に有効であると考えていました。

今回のプロジェクターは明るい室内での投影が可能でケーブル等の配線工事も併せて整えました。設置後の具体的な使用場面は、職員研修、PTA活動、保護者等への進路説明会、中学生対象の学校説明会等が考えられます。

そもそも、今年度、(公財)教育弘済会千葉支部の教育研究助成事業の指定を受けたため、その研究費で充たしようとしたのですが、希望する状態には程遠く、諦めかけていました。

そこで、八千代高校同窓会に御相談させていただきました。現場の声を良く御理解いただき、同窓会の学校設備支援費を有効活用させていただくこととなり、設置までのスピードが加速しました。早速、職員研修や部活動のミーティングで使用させていただき、改めて、その効果を実感しました。大切に使用させていただきます。(文：柳橋 宏昭)



クライミング競技選手の紹介

1年生の安樂宙人(あんらく そらと)君を紹介します。安樂君は、8月にアメリカで行われたIFSC世界ユース選手権ダラス2022大会においてユースA男子ボルダリングで3位、ユースAリードで優勝という輝かしい実績のある選手です。小学校低学年からクライミングを始め、頭角を現しました。

安樂君は冬期休業中にパリ五輪強化選手の国際強化宿舎に参加しました。安樂君に今後の目標を聞いてみました。『当面は競技選手として、ワールドカップに出場し、安定した成績を残せる選手になることが目標です。その経験を活かして、将来はワールドカップの課題を作る ルートセッターという仕事に就くことが夢です。』とのこと。安樂君は日本を飛び出して世界中を駆け回る・・・そんな夢を持っているようです。ぜひ、その夢を実現してもらいたいと思います。

2024年のオリンピック
パリ大会で活躍する安樂君
・・・楽しみです。

(文：金内 佳子)



テニスコートに照明を設置

「ラリーができます」「まだ練習できます」照明が設置された時、部員から上がった興奮の声です。10月から2月まで、テニス部の練習は日没との戦いです。授業終了から30分後(7時限には部活動開始前)には、ラリーができない暗さになります。そのため、手出し練習やサービス練習、フットワークがメインとなり、相手のボールを打つ練習は週末だけ。グラウンドの灯りを羨ましく感じながらの日々でした。

「もっと練習したい」という部員からの声を、何度もご相談してきました。そしてついに「テニスコートに照明を設置する」というお話をいただきました。

今年度入学の部員は、日没後も練習できる幸せを、当たり前と感じています。県立高校でオムニコートが2面・クレーコートが4面、そして照明が付いている学校は他にありません。この恵まれた環境でテニスに取り組めることに感謝をし、古豪復活へ向け精進していきます。ご支援ありがとうございました。(文：酒井 梓)



編集後記

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
この同窓会会報は、同窓生と八千代高校を結ぶ架け橋です。母校がどんな様子か、後輩たちがどんなに頑張っているか、先輩たちがどんな活躍をしているか、などをお届けします。

2022年はロシアのウクライナ侵攻があり、激動の年であったと思います。4年目に入るコロナ禍の中、世の中の情勢を見極め、ご自分の信念をもって学業及び職務にお取り組み下さい。

令和5年度が皆様方にとって更に躍進の年となりますように祈念いたします。

末筆ながら、お忙しい中、原稿を寄稿してくださった方には深く感謝申し上げます。(編集長 金子 保敏)

発行人：千葉県立八千代高等学校同窓会 会長 後藤 真
編集：同窓会報編集委員会
八千代市勝田台南1-1-1(八千代高校内) 047-484-2551